

自己評価シート【 不動児童館 】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1-1 理念・基本方針

1-1-1 (1) 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
<input type="checkbox"/> a)、 <input checked="" type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	児童館の理念、基本方針が目黒区児童館運営指針に明文化されています。 不動児童館のパンフレットに分かりやすく記載し、利用者への周知を行っています。パンフレットは不動小学校の入学の際に全児童に配布を行っています。 職員が配属になった際に目黒区児童館運営指針、児童館ガイドラインを配布し、理念、基本方針の理解を図っています。
1-1-2 (2) 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
不動児童館の存在意義は何かというテーマで理念、基本方針の確認を行っています。 年度に二回、人事考課を行っています。一人ひとりが理念や基本方針の理解ができているか自己評価を行っています。	職員の年度途中の入れ替わりなどもあり、理念や基本方針が浸透できていないところがあります。 月のおしらせで行事のねらいや考えを載せていく予定ではいましたが、おしらせの内容が多く、載せられない月が多くあります。

2、児童館の活動に関する事項

2-1 児童館の理念・目的及び施設特性

2-1-1 (1) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理	

<p>念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。</p> <p>(c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>児童館ガイドライン・目黒区児童館運営指針をもとに事業計画及び年間計画を作成しています。</p> <p>今年度は、子どもたちの参画を大事にしていく計画を立て実践を行っています。</p>
2-1-(2)	
児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を發揮している。	
【判断基準】	
<p>(a) 児童館の施設特性を發揮している。</p> <p>(b) 児童館の施設特性を發揮しているが、十分ではない。</p> <p>(c) 児童館の施設特性を發揮していない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>0歳から18歳未満の子どもたちを対象に、幅広い年代の子どもたちがホッと一息ついたり、体を思い切り動かしたりして遊ぶ中で、異学年や違う小学校の子どもたちがつながって過ごせる場所となっています。今年度は、おまつりのスタッフを募集したところ、1年生から6年生までの児童、また、私立小学校や他地域の小学校に通う児童が集まり、関係性を深める活動を行ってきました。中学生の来館も多く、小学生との関わりだけでなく、優先的にプレイルームを利用できる中高生タイムを作り、中高生ならではの遊びを展開することもあります。</p> <p>乳幼児の保護者達も乳幼児クラブや自由来館の中で、保護者同士がつながっていけるよう支援しています。ベビー活動の後に一緒にお昼を食べる姿や誘い合って来館する姿が増えています。講師を呼んだ活動や出張ほ・ねっとの中で子育ての不安を解消できるような活動を行っています。</p>
2-1-(3)	
子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】	
<p>(a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p>(b) -</p> <p>(c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>こども会議を定期的に行き、子どもたちの意見を児童館活動に取り入れています。また、日頃から子どもたちから出た意見に対して、職員同士で話し合い、活動にいかしています。子どもたちが意見を言いやすい雰囲気を作っています。</p> <p>館内に子どもの権利について掲示したり、こども基本法についての冊子を閲覧</p>

	できるようにしたり、子どもたち自身が自分の権利について分かるようにしています。また、年度初めには「すごいよ ねずみくん」の読み聞かせを行い、それぞれの良いところを認め合える関係性に繋げられるようにしています。
2-1-(4) 児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
<p>子どもの参画を大事にし、子どもたちの意見からウィークの企画を行ったり、欲しい本やおもちゃ聞いたりして、導入するようにしています。</p> <p>おまつりでは、自分たちのやりたいことが形になり、保護者や地域の方、学校の先生にも見てもらい、自信に繋がった様子が見られました。</p> <p>異学年で一緒に過ごすことを大事にしつつ、運動遊びの中では、同じレベルの子と遊びたい気持ちやボール遊び以外で遊びたい子の気持ちを大事にし、「低学年タイム・高学年タイム」の実施や「みんなであそぼうタイム」「一輪車タイム」などを行っています。</p>	<p>コロナ以前の児童館活動を知らない職員が多いため、一つずつ確認し対応しているところです。地域との関係やボランティアグループとの関係の再構築が必要と感じています。</p> <p>子ども会議に参加できない子もいるため、意見箱の設置を行う予定ですが、内容を詰め切れていないため実践に至っていません。</p>

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。</p> <p>(b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
□a)、 <input checked="" type="checkbox"/> b)、□c)	毎日、前日の振り返りを行い、日誌に記入を行うようにしています。特に気になる児童に対しては、対応策を検討し、全職員が共通となるようにしていますが、経験が浅い職員や週2日という職員もいて、共有が難しかったり、その日の子どもの状況に合わせて対応ができたりしていない面もあります。
2-2-(2) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。</p>	

<p>(b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input type="checkbox"/> a)、 <input checked="" type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>プレイルームでは、JUMP-JAM タイムやみんなで遊ぼうタイムを実施し、遊びのルールから子どもたちで考え、実践しています。遊戯室でも子どもたちが遊びを選択し、自分たちの遊び方で危険がない状況なら制限せずに遊べるようにしています。図工室での自由工作をコロナ以前の形に戻せていないため、今後、職員間で確認し、自由工作ができるようにしていく必要があります。</p>
<p>2-2-(3)</p> <p>子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。</p>	
【判断基準】	
<p>(a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。</p> <p>(b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>プレイルームでは、フリータイムの他、低学年・高学年タイムを作り、異学年と遊ぶ時間を大切にしながらも、同年代で楽しめる時間を持ったり、ボール遊び・ボール以外の遊びの時間に分けたりして、運動遊びの中でも同じ遊びだけにならないように工夫しています。異年齢と一緒に遊ぶ際には、力に差がでないように学年が分かれてチームを作るなど、異年齢で関われるように配慮をしています。また、その日の遊び方をみんなで考えたり、作戦が必要な遊びを取り入れたりして、関係が深まるように努めています。</p> <p>遊戯室のウィーク企画では、対戦相手を自ら声をかけて探すなど、学年関係なく遊べるように工夫をしています。実際に子どもたちも学年を超えて一緒に遊ぶ場面が多くあり、遊びを教えあう姿も見られます。</p> <p>おまつりの子どもスタッフの募集をしたところ、1年生から6年生の児童が集まり、話し合いや準備を主体的に行うことができました。</p>
<p>2-2-(4)</p> <p>遊びによる子どもの育成について</p>	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
JUMP-JAM タイムやみんなで遊ぶ時間の中では、既存の遊び方だけでなく、その日に来ている子どもたちから意見をもらい、納得した形でルールを決めて遊べるように工夫しています。	プレイルームで遊びたい児童が多いため、様々な工夫を行っていますが、ボール遊びができないなら帰ってしまうなど、他の部屋での遊びの発展に繋がれないケースも多々あります。

<p>高学年タイムや低学年タイムを入れることで、手加減をして遊ぶことを学んだり、同じレベルの子たちで思いっきり遊べたりできるようにしています。</p>	
---	--

2-3 児童館の安全管理

<p>2-3-(1) 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。</p>	
<p>【自己評価】</p>	<p>実践例（取り組みや記録等）</p>
<p><input type="checkbox"/> a)、<input checked="" type="checkbox"/> b)、<input type="checkbox"/> c)</p>	<p>毎月、避難訓練を実施し、職員数の少ない土日の訓練も年間4回実施しています。同じ館内にある保育園と連携し、利用者や園児の安全を守る体制を作っています。 週に数回の出勤の職員もいるため、有事の際のマニュアルを整備し、利用者の安全優先の対応を確認している最中です。</p>
<p>2-3-(2) 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。</p>	
<p>【自己評価】</p>	<p>実践例（取り組みや記録等）</p>
<p><input checked="" type="checkbox"/> a)、<input type="checkbox"/> b)、<input type="checkbox"/> c)</p>	<p>日々の清掃・消毒作業を行いながら、施設の点検を行っています。施設点検や活動の中で気になる点は、非常勤職員も含め、「ヒヤリハットレポート」の記入を促しています。ヒヤリハットレポートに記載されたことは、毎月の職員会議の中で分析・対策の検討を行い、全職員が共通認識となるようにしています。</p>